

E-Oral Presentation | 電気生理学・不整脈

E-Oral Presentation 8 (III-EOP08)

Chair: Hiroya Ushinohama (Ohori Children's Clinic)

Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 2:00 PM E-Oral Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

1:00 PM - 2:00 PM

[III-EOP08-07] アミオダロンを経口投与した小児症例の有効性・安全性の検討

○福島 直哉, 高砂 聡志, 山田 浩之, 住友 直文, 宮田 功一, 永峯 宏樹, 大木 寛生, 三浦 大, 澁谷 和彦 (東京都立小児総合医療センター循環器科)

Keywords: アミオダロン, 甲状腺機能異常, 肝機能異常

【背景】. 成人領域ではアミオダロン内服の有効性, 安全性に関する検討が多く報告されているが, 小児領域では少ない。【目的】 当院におけるアミオダロンの使用実績から, 小児に対する使用法, 有効性・安全性を評価すること。

【方法】 2011年4月～2016年12月に入院した20歳未満のアミオダロンを内服した不整脈症例を対象とし, 後方視的に調査した。【結果】 対象は16例で, 年齢は中央値 1.5 (最小 0.06-最大 19.7)歳, 男女比は 6: 10, 先天性心疾患を有する症例は 8例 (周術期 7例), 心筋症3例, 心筋炎 2例, 心臓線維腫 1例, 基礎心疾患なし 2例であった。不整脈の起源は 上室性が 7例 (心房頻拍 5例, 発作性上室頻拍 1例, 接合部頻拍 1例), 心室性が 9例 (心室頻拍 7例, 心室期外収縮 2例)であった。上室性の有効例は 2例, 心室性の有効例は 8例で, 有意に心室性で有効であった ($P = 0.035$)。維持量は, 中央値6.5 (最小 2.5 - 最大 15)mg/kg/日, 内服継続期間は中央値 193 (最小 16 - 最大 1815)日であった。30日以上内服した症例14例で副作用を調べた。甲状腺機能異常は 3例 (低下症2例, 潜在性機能低下症 1例)であった。肝障害は 5例で見られたが, 4例は軽症で服薬量の調整を行わずに軽快した。内服後に徐脈傾向を示したのは 3例 (1例はカルベジロール併用), 補正 QT時間 (Fridericia)が 460 msec以上を示したのは 2例で, いずれも 10歳以上の年長児であった。甲状腺機能異常, 肝機能異常, QT延長のいずれかを呈した症例は 14例中 5例 (35%)であった。その他, 明らかな肺毒性, 神経学的異常や眼病変を呈した症例は認めなかった。【考察】 アミオダロンは, 心室性不整脈では有効で上室性不整脈では無効のことが多かった。副作用の頻度 (35%) は, 成人での既報告と同等であり, 小児においても内服中および内服中止後 (アミオダロンの半減期を考慮し半年程度) も定期的に検査を行う必要がある。